

例から考える卒前教育を含めた評価の問題点を考察し、医学生、専攻医の立場からそれぞれが経験した評価についての意見を伺った上で、グループで「学習を推進するための評価」という視点で改善を議論した。今後はさらに議論を発展させ、学習を推進する評価の理解を深めるために、大会等でのワークショップに加え、ナラティブな評価の教育学的背景、実施方法と活用

のポイントの解説を学会ホームページで情報発信する予定である。学習者評価の理解を深めるために、評価のあり方を指針として取りまとめ、提示するための準備も進めている。

副部会長：松山泰，部会員：椎橋実智男，浦野哲哉，高村昭輝，高田和生，清水郁夫

*1 Learner Assessment Subcommittee

*2 Masami Tagawa

20. 入学者選抜部会^{*1}

平形 道人^{*2}（部会長・慶應義塾大学医学部医学教育統轄センター）

大学医学部、医科大学の医学教育における学習者評価の端緒であるとともに、次代の医学、医療を担う優れた人材の選抜は、大切な課題である。各大学が、多大な教育資源を費やし、一般選抜、推薦選抜、総合型（AO）選抜などのシステム、学力試験、面接試験、推薦書などの選抜法を中心に、多面的な評価により、入学者選抜の改善に取り組んでいるものの、未だ確立されていないのが現状である。

当部会では、アドミッション・ポリシーに基づき、①「良き医療人としての能力と資質を備えた人材」を選抜するためのシステムや方法の開発、②世界の動向や社会のニーズに応じ、わが国の教育制度に基づいた選抜法の課題とその改善について検討し、情報発信することを目的として活動している。

2018年、入学者選抜の方法や運用において複数の大学で不適切な事案が確認され、全国医学部長病院長会議の「医学部入試に関する規範」では性別や年齢などの属性による差別禁止、「大学入学者選抜の公正確保等に関する有識者会議最終報告」では、「公正性」が重要課題として

強調された。一方、「公正」そのものについては、検討が不十分ともいえる。この課題に対して、当部会は、第53回学術大会において、シンポジウム「医学部入学者選抜の公正性」（2021年7月）を企画し、開催した。シンポジストによる講演『1) 組織構成論（分配・手続き・相互作用の公正の評価軸）での検討（賀来委員）、2) 教学IRによる、わが国の医学部入試データに基づく収集・分析と公正性への対応（恒川委員）、3) わが国の受験学力を重視する入試、教育格差による不公正に関する調査と将来展望（大滝委員）、4) グローバルな視点で捉えた入学者選抜の公正性と多様性の論点整理と McMaster 大学の入学者の選抜と属性に関する調査（渡邊委員）』とそれぞれの課題とその改善・対応策について議論を深めた。今後も「アドミッション・ポリシーと入学者選抜の整合性」「総合型入試、Multiple Mini-Interview の現状と課題」「入学者選抜とアウトカム（入学後実績・能力）との関連性の分析」「経済格差／教育格差と入学者選抜」「世界における入学者選抜の動向」など、わが国の入学者選抜の改善に取り組む。